

週報2023年4月16日

■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2023年4月16日

ピアノ: 赤松姉 オルガン: 力丸勝子師

司会: 石田兄 献身の祈り: 三溝姉 メッセージ: 力丸嗣夫師

前奏	
開会の祈り	司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌 467「世の終わりのラッパ」
祈禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! *
賛美	新聖歌 148「タベ雲焼くる」
献身の祈り	三溝姉
賛美	新聖歌 219「われを見出し」
賛美	コーラス 35「今こそキリストの愛に应えて」
聖書箇所	ヨハネの福音書 20章1-18節
説教	「世界を変えたイエス様の甦り」 力丸嗣夫師
祈禱	「応答の祈り」
頌栄	「主の祈り」
祝禱	力丸嗣夫師
後奏	

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか*
- *互いに赦し合っていますか*
- *互いに祈り合っていますか*

『世界を変えた主イエス様の甦り』

ヨハネ福音書：1章1節～18節



交わり	①	互いに愛し合っていますか。
の	②	互いに赦し合っていますか。
三省	③	互いに祈り合っていますか。

ヨハネ福音書：20章1節～18節

- 1節： 週の初めの日に、マグダラのマリヤは朝早くまだ暗いうちに墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。
- 2節： それで、走って、シモン・ペテロとイエスが愛された、もう一人の弟子との所に来て、言った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私たちにはわかりません
- 3節： そこでペテロともう一人の弟子は、外に出てきて、墓の方へ行った。
- 4節： 二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロより早かったので、先に墓に着いた。
- 5節： そして、体をかがめてのぞき込み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中には入らなかった。
- 6節： シモン・ペテロも彼に続いて来て、墓に入り、亜麻布が置いてあって、
- 7節： イエスの頭に巻かれていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れたところに巻かれたままになっているのを見た。
- 8節： そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子もはいて来た。そして、見て、信じた。
- 9節： 彼らは、イエスが死人の中から甦らなければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。
- 10節： それで、弟子たちはまた自分の所へ帰って行った。
- 11節： しかし、マリヤは外で墓の所にたたずんで泣いていた。そし

て、泣きながら、体をかがめて墓の中をのぞきこんだ。

- 12節： すると、二人のみ使いが、イエスの体が置かれていた場所に、一人は頭の所に、一人は足の所に、白い衣をまとってすわっているのが見えた。
- 13節： 彼らは彼女に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」
- 14節： 彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるのを見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。
- 15節： イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。誰を探しているのですか。」彼女は、それを墓の管理人だと思って言った。「あなたがあの方を運んだのでしたら、何処に置いたのか教えてください。そうすればわたしが引き取ります。」
- 16節： イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語で、「ラボニ(すなわち、先生)。」とイエスに言った。
- 17節： イエスは彼女に言われた。「私にすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父わたしの神またあなたがたの神のもとに上る。』と告げなさい。」
- 18節： マグダラのマリヤは、行って、「私は主にお目にかかりました。」と言ひ、また、主が彼女にこれらの事を話されたと弟子達に告げた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

なんとドラマチックな、物語でしょう。…と同時に、途中、苛立ちを感じる様な、弟子たちの反応ですね。しかし、私たちはすでに聖書の福音を通して、神の創造のご計画(過去・現在・未来・永遠)への成行即ち、主なる神様が人を創造された経緯とそれに続く…

* 人類の墮落の歴史(聖書の歴史・更にその後の今日までの人類の

歴史)をみてきました。

*更に、主なる神は、その様な罪人に救いの道を開かれるために、御子イエス・キリスト様をお送りくださってことも、学んできました。

*今日の学びも、その救い(創造)の完成へと進む、“死からの甦り”の出来事ですから、私たちには周知のことではあっても、新たな期待と更なる確信への学びとして、読んできたので、心ならずも、弟子たちの戸惑いや、不信感には引きずられる事はないでしょう。

しかし同時に、何度も学んできて、周知の事として、復活が、物語化してしまっており、過去の出来事・聖書の物語…として、頭の中で終始してはいないでしょうか。と申しますのは、“イエス様の勝利の復活”と言う勝利感があるから…私たちは、こうしてイエス様と語らい。イエス様に祈り、イエス様から新しい力を得て、生かされている…と言う、信仰生活を喜んでいるのです。

では何故、あなた(そして私達は)信仰生活の中で、行き詰まりや心配事に直面すると、失望落胆するのでしょうか…?

失望・落胆は“死”なのです！

どうして私たちは、好んで？ この泥沼の中に身を置くのでしょうか。

失望・落胆は“死”なのです！

どうして私たちは、好んで？ この泥沼の中に身を置くのでしょうか。悲しいばかりにこの現実から抜け出せないで、今日も、悲しみの中に身を置き、…そうだ！死んだ後に復活があるのだ！ その時まで、忍耐してこの世を歩もう…！ と、それがクリスチャン人生だ…と、誰がその様に教えたのでしょうか。忍耐を乗り越えて、永遠の復活を待ち望もう…それは信仰生活の真髄ではありません。もしそれが福音信仰でしたら、クリスチャンの信仰生活は、押し殺したような、失望こそないけれど、忍耐に忍耐を重ねてその年輪の深さに、満足する宗教になってしまします。そのような年輪を二千年以上重ねてきた、優れた信仰で

はないのです。

あなたの信仰生活に、輝きがありますか！ あなたの日々の生活の姿を見た方が、希望を求めて、あなたの傍に近寄ってこられますか。あなたの中に、復活されたイエス様が共に歩んでおられますか。

聖書の語る福音

1. **降誕** (神が人となられた) “メシヤ”がこの世に来た！
2. **十字架の贖罪の死** (全ての創られた人の罪の身代わりの死)
3. **死者の中からの甦り** (神の創造の勝利へのメッセージ)

復活信仰は、人生を終えて死を迎えた時、必ず甦る時が来る…と言う、来世信仰だけではないのです。もちろん死後の復活=永遠の命…永遠に神と共に住まう(黙示録21章1節~7節以下22章7節)…と言う信仰は、私たちクリスチャンの最大の希望で、ある意味でそれ故に、人生のあらゆる苦しみや悲しみにも、永遠への希望が支えとなって、力強く生きる力となっているのです。

しかし、この様な来世信仰もさることながら、私たちクリスチャンの復活信仰の力と輝きとは、今、生かされている日々の生活の中で、心も体も魂も、解放されて、死んでいた霊(魂)が、生き生きと輝き始めるのです。即ち、罪のゆえに、死んでいた霊が、今確かに甦ったのです。それは次の約束に明らかなのです。

イエス様の約束を思い出してください。(ガラテヤ5:22節・23節)
『わたしは言います。御霊によって歩きなさい。…御霊の実は…

*** 愛 * 喜び * 平安 * 寛容**

*** 親切 * 善意 * 誠実**

*** 柔和 * 自制**